

地図で読む中華文明

【主編】華林甫 【副主編】胡恒 【翻訳】伊藤経子

●予価：本体24,000円＋税 ISBN978-4-8433-6373-9 C1022

2026年秋刊行予定

広大な中国の大地では、はるか数千年前から、各地で人々は生活し、多くの王朝は生まれては消えていった。中国の大地のどこでどのような文化が栄え、王朝はどのように領土を拡張し衰退し、次の王朝に変わっていったかを各時代ごとに地図で示した。また、先秦なら考古遺物、唐代なら政治体制、明代なら交通の発達など、各時代の特徴も写真・図版とともに解説する。

目次

●【先秦】文明の濫觴 百家争鳴

原始大地の文化の異彩／華夏文明成長の歴史／三王朝の統治の知恵／謙謙たる君子の重厚な優美さ／はるか昔の先哲

●【秦漢】九州共貫 諸方経略

国土開拓 王朝統一／交通華洋、国外を見晴らす／農業は国の基本、健やかな生活と豊かな物資／多彩な社会、きらめく宝玉

●【三国両晋南北朝】乱世繚乱 新生融合

大分裂、大移動と大融合／政治・文明の低迷／南北経済の新局面／多元文化の綻び／対外交流と連携

●【隋唐五代】文明の真っ盛り 当代きっての風采

煌めく大業／全盛期の思い出／文明の伝播／繁栄の極みと凋落

の始まり

●【遼宋西夏金】鉄馬に乗り氷河を越える 市井の華やかな繁栄
朝野雑記：両立と抑制、均衡／江南の栄え：開発と繁栄／東京夢華：都市と生活／域外経略：貿易と航海

●【元】多元一統 鑲嵌複合

乾符を握りて朔土を起こす／大いなるかな乾元／文明を越えて／ユーラシア東西を結ぶ交流路を辿る／元代社会訪問記

●【明】商業勃興 海洋時代

統一された中央集権国家／海と陸の交流／称号時代の社会の顔

●【清】領土丕基 西学東漸

東方の王朝／天朝の悪夢／近代化の道

漢字文化研究叢書

① 中国の文字世界

●定価：本体 8,500円＋税

【編著】国家図書館中国記憶プロジェクトセンター 【訳】水野衛子
中国で使用する文字と生み出された文化を解説。

② 古漢字発展論

●定価：本体 12,000円＋税

【著】黄 徳寛 【監訳】戴 敏裕 商代前期より秦の時代における古漢字を具体的に分析し、その発展史の理論的枠組みと評価基準を確立。

③ 漢字文化大観

全2巻 ●揃定価：本体 27,000円＋税

【監修】何九盈／胡双宝／張 猛 【監訳】杉村博文 漢字の文化的機能と価値、その文化史に占める崇高な地位を可能な限り体系的に記述。

中国学術文庫

② 敦煌の仏

●定価：本体 9,300円＋税

——莫高窟一千年の歴史と芸術 【著】段文傑 【監訳】向井佑介
敦煌莫高窟の芸術に魅せられ、その調査と研究に生涯をささげた敦煌研究院名誉院長、段文傑。その主要論考の内、莫高窟の芸術と歴史を理解する上で特に重要な九編を収録。著者の模写図版も多数収録。

③ 日本古典文学の伝播と翻訳

●定価：本体 9,400円＋税

【著者】王曉平 【監訳】濱田亮輔

近代中国の知識人たちは日本古典を中国語に翻訳していた。対象作品の文学史での位置づけ、中国の時代・作品との対応も重視した当時の翻訳状況を、万葉集・今昔物語・俳句を中心に引き上げ考察する。



〒101-0047
東京都千代田区内神田 2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
https://www.yumani.co.jp
e-mail eigyou@yumani.co.jp



●おすすめしたい方●

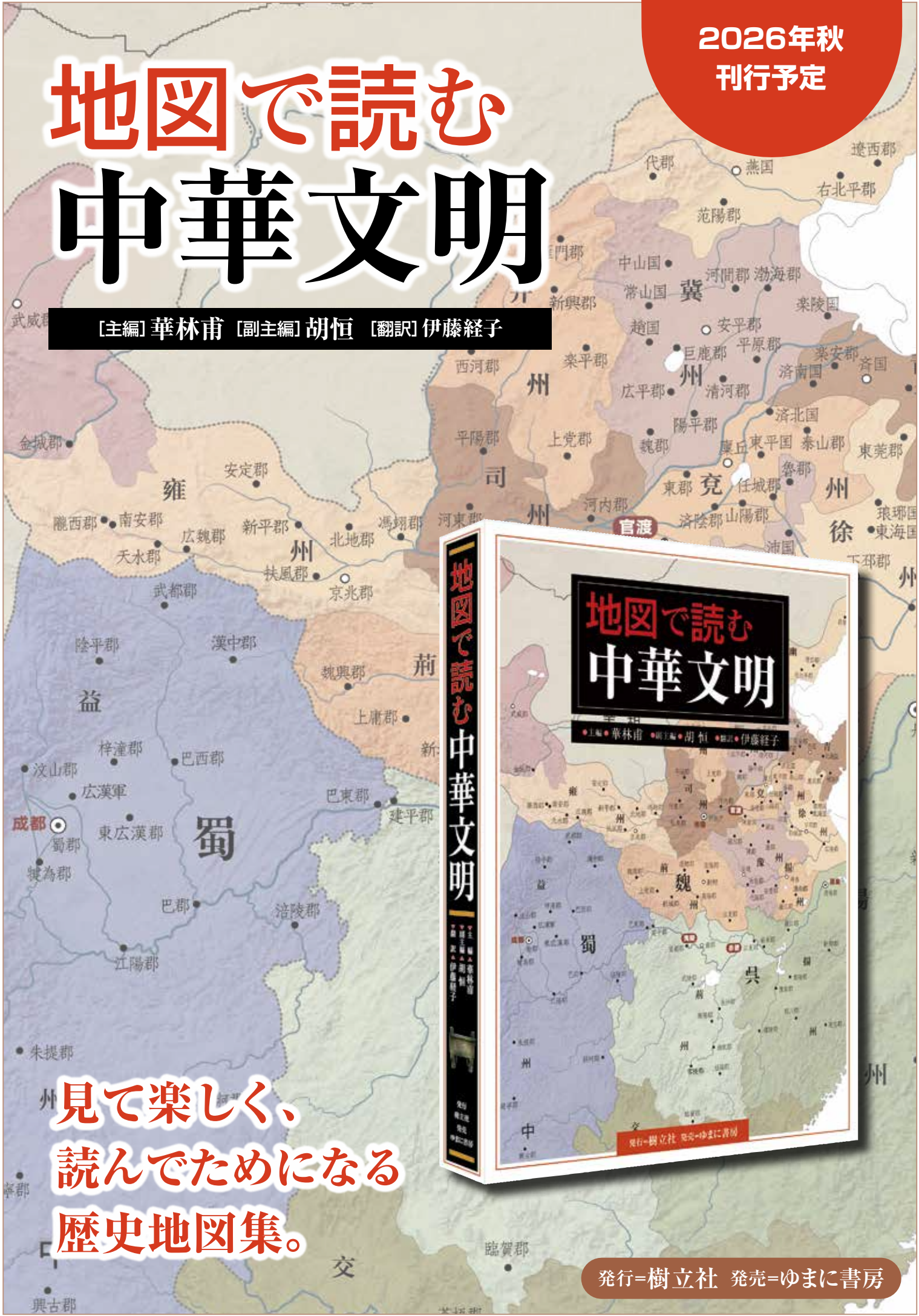
公共図書館、高等学校・大学・研究機関の図書館、そのほか、ひろく中国に興味をお持ちの方、地図の好きな方。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491 / Fax.03(5296)0493 年 月 日	
地図で読む中華文明	
予価：本体24,000円＋税 ISBN978-4-8433-6373-9 C1022	
ご注文書	お名前
お名前	TEL ()
取扱店	

2026年秋
刊行予定

地図で読む 中華文明

【主編】華林甫 【副主編】胡恒 【翻訳】伊藤経子



見て楽しく、
読んでためになる
歴史地図集。

発行=樹立社 発売=ゆまに書房

度全国を統一した。

唐の太宗李世民は人を見分け活用し、謙虚に謙言を受け入れた。謙言機微と政について論じ、機微と称するに足る人物であった。周辺の民族に対しては懐柔政策を実行した。以前の居住地では「全員にその居住地の風俗習慣に従」わせ、羁縻府州制度を確立、各部の酋長を都督、刺史とし元来の風習や社会制度に固り治した。しかし、内地を侵略するやや朝廷に対し深刻な脅威をもたらす者に対しては、唐王朝は決して甘い顔は見せず、高昌を平定し東テュルク、吐谷浑を滅ぼし、西域宛るを行ちのめすことにより辺境地域の安定を保った。

唐の初め、中国史上唯一の女帝—武周天が現れた。建國号为「周」、歴史上では「武周」と言う。女帝武周天在位期間、政治は明開で、経済・社会は持続的に発展し「貞観の遺風」が色濃かった。政治においては彼女は王孫の流代を討ち貴族勢力を弱体化させ、科擧の制度の発展を通じて才能ある若者を抜擢し統治の基礎を拡大していった。経済においては農業生産を重視し「唐國の根本は農業にあるべき」と提唱した。軍事面では北庭都護府を設け、安西都護府と天山の南北両方を分割し管理、辺境の安定と中国と外族の経済、文化の交流を保証した。

唐の玄宗の元宗、天宝年間に再び昇平を見た。玄宗は統製、宋郊等の賢才を重用し、無駄な官職を整理淘汰し、水利事業を興し、農耕と養蚕を奨励

「唐「中書省の印」

し、兵制を改革、仏教の氾濫を抑制した。唐王朝は大発展、大繁栄の黄金時代に入った。杜牧は詩に「憶昔开元全盛の日、小邑猶如数十万家の壑。稻米は脂を流し粟米白く、公私の家俱俱に豊満なり（むかし開元の時代の全盛日その日々を思い返す。小さな町にも万を数える家があった。米はつややかで粟は白く、公私いづれの米倉も充実にいった）」と詠んでいる。

147

「唐代茶葉の流れ」

- 行茶**
 - 「茶葉の使用量が増え、あまのいは歌い詠む新を使用」
 - 「それを持ち次に送付け」、茶葉が「ギマの背骨」のようになるまで蒸る
- 運轉**
 - 茶葉が貯められた朝かくなるまでです。あまにかけた粉茶を餅に丸く包みそっかり焼いて置いておく
- 飲水**
 - 山の泉水上
目的が水中
泉戸の水が下
- 採集**
 - お湯をおかずきずは湯に注ぎ込みあり
 - 一湯：熱の目のような泡が出来ない程まで待つ → 煮い
 - 二湯：餅に茶が透くように味を通す → 中湯（最もよい）
 - 三湯：湯気がうらやまきたまで → 煎成
- 煎茶**
 - 焼き餅の殻を加えず「塩梅に調整する」。二度目の沸騰時、まず餅殻で灰をひと掴みとる。沸騰した湯の中心に竹の葉を入れ戻すようにはかりながら、粉茶湯をを取り混ぜた湯の中心を利用して茶を焙けて下へ落とす。しばらくゆぐ、あらかじめ物につけてある茶をまたもった茶葉を入れた鍋の中に入れて煮る。
- 飲茶**
 - 湯釜、茶壺、一舟は銅五枚に分け置き付ける。第一の湯が最もよく「陶土」と呼ばれ、日陰乾し調製する。

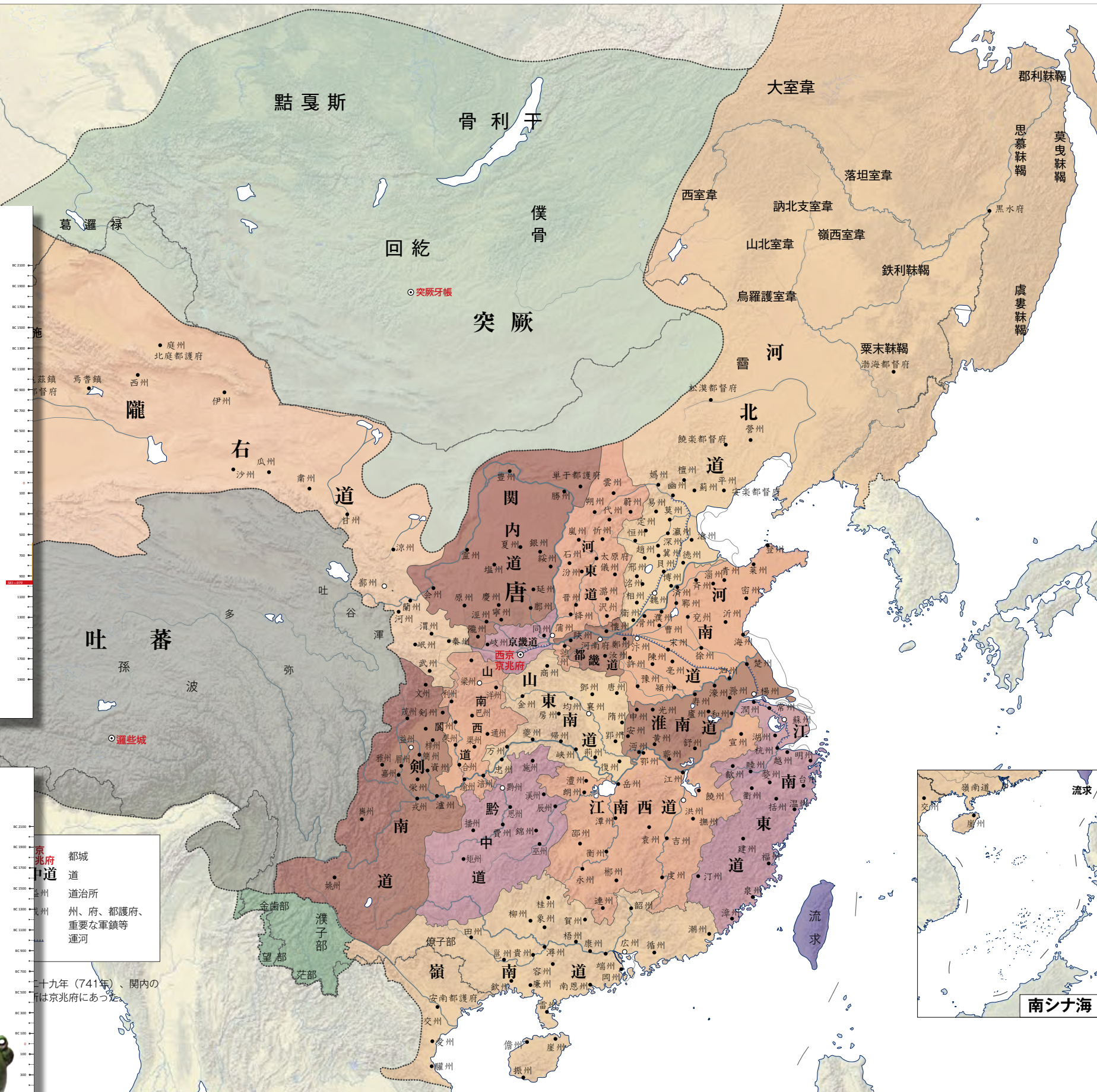
「越堂青磁托托」

「唐代茶流鉢緑茶壺」

重なり別層を軽んずる。先月は浮梁に茶を買いにいった」と描かれたことがある。

水利は農業の命脈である。唐王朝は水利建設を重視し、工部に設置した水部司と目録部において全国の水上演習事業、灌漑工程に管轄するとともに水利管理法規「水部式」を発出した。一代前朝の代りに比べて唐代南方の水利施設の数著しく増加した。

十分な食物供給は人口増加を推進させた。文献の記載によると、唐代前期の人口は5000万余にまで達したが、戸籍の漏れや辺陲民族の人口が統計に反映されていないことを考慮すると、全国の人口は8000万前後であったはずである。当時の生産レベルと科学技術の発展においてはこの数字は驚かぬ驚くべきものである。



「唐代情勢図」は 85%、
 その後は 40% に
 縮小してあります

[illegible]

「唐代天宝年間（742～756年）人口分布略図」

・本拠点はひとつ
戸籍人口1万人を
集めている。

「唐代の人口情報」

年	人口 (単位: 人)
639年	12351681
705年	37140000
732年	45431265
740年	48143609
754年	52881280
755年	52919309
760年	16920366
820年	15760000
821年	15762432